

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190501759), 法人名 (有限会社アイ), 事業所名 (グループホーム藤野の杜 くるみ), 所在地 (札幌市南区藤野2条7丁目5番1号), 自己評価作成日 (令和5年12月26日), 評価結果市町村受理日 (令和6年3月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム藤野の杜では、グループホーム単体事業として、平成28年10月にオープンいたしました。閑静な住宅街に周囲の木々からの鳥のさえずり、さらには藤野周囲の山々が望むことのできる環境にあります。更に、裏手には小学校があり、登下校や授業時の子供の元気な声が、入居者に元気を与えてくれています。建物の特徴といたしましては、2ユニット18名の方が一階の平屋で完結していることもあり、互いが交流しやすいことや、災害時にスムーズに避難ができることです。また、2階には多目的室を設けており、地域の方々との交流の場としての位置づけや、同法人内四事業所が集まる研修会の場、大規模な行事の場として、交流を深めています。平成30年に発足した、藤野地区高齢者事業所連絡会(ふじネット)においては、今年度より対面式での開催も再開され、地域の行政担当とも連携をとりながら、地域の福祉力向上に向けて取り組みを行っているところです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0190501759-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「豊かな暮らしができるよう」支援はしている。さらに今年度は、ユニット理念「困難もスクラム組んで限界突破」も掲げて取り組んでできているところである。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で、地域への参加が途絶えていたが、今年度から少しずつ地域行事への参加を再開、近隣の高齢者事業所の夏祭りや、町内会主催の交流会、小学校行事の参加など、地域とのつながりを持つきっかけ作りを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	藤野地区高齢者事業所連絡会「通称：ふじネット」では、活動もオンラインから対面式へ移行、事業所同士の情報共有を行っている。今年度は藤野地区の歴史について深堀し、藤野地区の歴史について学びを深めることができた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を対面式で開催、入居者様の日頃の様子や、事故報告など行い、地域の方々や、ご家族様より意見をいただき、業務に反映できるよう取り組みを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業運営に関する疑問や不明点など、市へ随時質問をし、曖昧にしないよう努めている。地域では地区事業所同士でのネットワーク「ふじねっと」を開催し、包括支援センターや地区担当保健師などにも参加いただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会による研修の開催。グループワークを通じ、自らの振り返りの中から、不適切なケアにつながっていないか、確認しあっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	来年度から必須となる虐待防止委員会設置に向け指針整備の準備を行っている。日々のケアの中で虐待につながるケースはないか、身体拘束委員会が現在中心を担いながら、研修を行っているところである。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会をいまだに開催しておらず、知識としては不十分である。全職員が基礎知識を習得できるよう努力していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談をいただいたころより、ご本人、ご家族様には、十分な説明をしたうえで理解をいただいている。改定の際においても、常にご家族様にも不明点など確認をとりながら、理解できるよう同意をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置、利用者には普段の生活の中で、ご家族様には面会時などでご要望などをお聞きし、カンファレンスや申し送り時に情報共有している。3か月に一回季刊誌を発行し、個別欄を設け工夫を凝らしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやカンファレンス、個人面談など職員は運営に関する気づきや意見を述べて、管理者も参列し可能な限り反映できるよう努力している。運営に必要な最低限度の基準の順守について皆が共通知識として取得できるよう、発信している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用しての個人面談を行い、評価、目標の設置などモチベーションを上げるための支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会や身体拘束委員、感染委員が年間計画を立て、内部研修の充実を図っている。新人研修については、各担当者が話し合う機会がもてないため、一部の職員に負担がのしかかることがある。資格取得に向けた外部研修には積極的に参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ユニットリーダーが中心となり、藤野地区の事業所ネットワーク(ふじねっと)への参加をはじめ、近隣事業所への夏祭りの参加など、積極的な取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず事前訪問や来訪していただいたの面談を実施。ご本人様の取り巻く環境について理解したうえでかかわるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居間もないころは、ご家族様へ日々の様子など報告し、不安の軽減に努め、関係構築に向けての努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所のできる範囲でのサービス機関の調整・活用方法などの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、できることは積極的に参加していただき、役割の場を持っていただくことで、生活への活力につながられるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪の際は、近況や、普段の生活状況をお伝えし、把握していただいている。また、ブログや、藤野便りの発行、お電話などでご本人とお話をしていたりし、関係が途切れぬよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人においては、ご親族を中心に電話連絡や、季刊誌などの発行、ブログなどを活用し、情報提供を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、認知度の状況を把握しながら、席の工夫や、趣味の合うもの同士の接点を持ってもらう機会を設けているが、その時の状況などでトラブルに発展しそうなときは、速やかに職員が介入して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからのご家族、関係者の来訪はないが、来訪された際は快く受け入れ、必要な相談にも応じられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや申し送りで担当者が中心となり、ご本人やご家族のご意向をお伝えし、希望を尊重できるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には暮らしシートに記載していただき、生活支援に役立たせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員を担当制にして、個々の状況の把握に努め、カンファレンスなどで情報共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援ができるよう、また、家族、本人の希望も常に聞き取りながら職員が担当入居者のアセスメントを実施、情報共有し結果をもとに、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	携帯端末での記録システムへ変更してからは、日々の様子が共有しやすくなり、展開がスムーズになった。モニタリングシートを活用し、月に一回のカンファレンスで、協議しあいながら、修正できるところは修正している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今まで培われた経験や趣味活動を把握し、家庭菜園や芸術鑑賞などの体験など行っていた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防センター主催のオンライン健康講座や月に一回の体操ボランティアの方による体操教室に積極的に参加、普段とは違う変化を加えることで生活にメリハリをつけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間医療連携体制が図れるよう、往診医と連絡、調整を図っている。また、専門外については、元来通われていた病院とも連携、受診など行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師が、介護職員などからの情報をいただきながら、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者（看護師）が中心となって、入院機関と情報を密にしながら、環境へのダメージを少なくするよう早期退院にむけ連携を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へは入居前に重度化、看取りの指針は説明し同意いただいている。途中過程においても随時、家族や医療機関と連携や確認をとりながらすすめている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命、応急処置などの実践形式での研修会がいまだに不十分である。緊急時にいつでも対応ができるよう、講習会を開催していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的（年二回）に夜間想定火災（避難）訓練を実施している。避難経路の確認、消火器の保管場所、使い方は全職員の共通認識事項である。BCP作成後の実践的な避難訓練が今後の課題。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重に念頭を置き、言葉遣いに気を付けながら日々行動をしているが、職員の都合に合わせた声掛けや支援、配慮に欠けた声掛けも時折聞かれる。職員一人一人の言動を身体拘束委員会などを中心に課題として、振り返りを行い反省し次につなげている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に沿って自己決定ができるよう声掛け、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に沿った生活ができるよう支援している。食事や入浴などの時間変更も柔軟に対応させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は日々の生活で行っており、特に行事の際はおしゃれなどをして、自分らしさが表出できるよう支援しているが、時折身だしなみについて観察が行き届かない部分がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事、誕生会などで工夫した食事提供を行っている。盛り付けにも工夫を凝らし、味だけではなく見た目にもこだわっている。特に誕生会では、ご本人の好みのお食事内容も取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のレベルに応じ食形態の工夫を行っている。水分については、好みなどに合わせ、すずみが悪い方に関しては、ゼリーに変更したり、コップの大きさを変えたりし、工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを業務に取り入れておきながらも、不十分な時がある。口腔内の不衛生が様々な合併症を引き起こす要因になるということを理解しながら、清潔保持に努めていく。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄行動やパターンを把握し、利用者の動きなどに合わせ、声掛け誘導を行っている。おむつ対応の方についてもできる限りトイレでの排泄を試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り	水分摂取の声掛けや適度な運動を促し、必要時には下剤を調整し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者は週二回の入浴を実施している。ご希望に応じ、2回と限らずその時々に応じた入浴も行っていただいている。気分などのむらがある場合は無理強いせず別日に変更し、本人本位の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床、起床ともに利用者のペースに合わせている。眠れない時は暖かい飲み物などを提供、転倒予防の意味で居室内に人感センサーを設置し安全配慮に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の	看護師が中心となり、入居者のお薬情報や注意点などの情報はおろしている。下剤は状態によって、調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作活動や体操、ゲームなどを通じて達成感や満足感を得ている。テラスや、外庭での外気浴や散歩なども取り入れ、気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出の外出も徐々に取り入れ、気分転換が図れるよう支援している。また、近所への散歩など希望される方に沿った支援もやっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームでの管理を行っているが、ご自分で金銭の所持をされる方については、現金が紛失しないよう注意している。また紛失される可能性もあることから、事前にご家族へはリスク説明もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に、ご家族様から電話をもらい話されたり、タブレット端末を用いてテレビ電話なども行ったりしている。管理者から連絡事項のある際も、ご本人にお電話をつなぐなど配慮をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては窓から一望できる自然景観を主体に置き、そのほかに季節の花やクリスマス、ハロウィン、正月飾りなどで季節感や生活感を楽しんでいただいている。また、一日二回の消毒や換気なども取り入れ、感染対策をしつつ、過ごしやすい環境が提供できるよう取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味の合う同士で意図的に席を変えてみたり、他者との交流が難しい方においては、個別にレクリエーションを施したりと工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が今まで使用していた馴染みのものを極力持参していただき、環境へのダメージが最小限になるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名札を付けており、居室内部においても色違いのクロスを貼り付け、トイレには夜間でもスポットライトが当たり、視覚での認識ができるよう工夫されている。		